

# おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

— “なるほど” 見つけ —

NO. 107



花粉症で目が開けていられません。お風呂って危なくないですか？ 私は、つい目をこすってしまいたくなります。こすったら大変！ 目を取り出したくなります。そんなことをしながらも身体を洗わなければなりません。先日も、目をつぶりながら、タオルを濡らして、石鹸をつけて、身体を洗って…、すべて手探りでやりました。そこで思ってしまいました。まさに職業病です。

目をつぶったままなのに、なんでタオルだってわかるの？ なんで石鹸に手を伸ばしてゴシゴシできるの？ 身体の隅々まで、見ていないのに洗えるの？ 自分でしていることなのに、摩訶不思議です。目をつぶりながら考えてしまいました。

見えないものが見える力が、私達にはあります。ズボンの後ろの裾をしまったり、トレーナーを頭から被せられて、手探りで袖に手を通したり、カバンの中を見ないでもお財布を出せたり、そんなに神秘的なことではありませんが、言われてみれば不思議な力ですね。

え？ どうやって身に付けてきたかって？ 「あれは〇歳の頃だったよな～」なんて答えられる人、きつといません。いつの間にかできるようになってきたはずです。子ども達の中には、そんな力がまだ身に付いていない子がいます。けっこう多いです。身体を操るのはそんなに下手じゃないのに、何かちょっとぎこちない、お友達の輪の中で過ごしたいのに、程よい距離がとれなくて、どうにも上手くいかない、なんて話をよく耳にします。

あんずの支援では、そんな苦手さにもソフトに手をかけています。小さい子には、スキンシップ遊びや手遊び、揺らしっこやブランコ、体操やかけっこ、運動サーキット、スライムに粘土遊び、そのすべてが“見えないものがイメージできる”力を育てていく源になります。放デイの子ども達の中にも、そんな硬さがある子がいます。ちょっとした活動の中に、そんな力が付いていく隠し味を添えています。何も特別なトレーニングじゃありません。普段経験するようなことの中に散りばめられているのです。関わる大人が意識しているかどうかですね。でも、なんでスキンシップ遊びやブランコをすることで、“見えないものが見える力”が付いていくのでしょうか？ さっぱり結びつきませんね。これを話すと長くなりますので、支援の中で具体的にお話していきます。“なるほど”がたくさん見つかると思います。

先日、放デイの支援の中で、こんな取り組みをしました。合図で動物の絵を見せ、同じポーズをとって身体を止めるゲームです。カエルのポーズをとったり、クマになりきってポーズをとったり、みんな楽しそうに、でも、ちょっと真剣に取り組んでいました。そしてそれは、自分の今の姿勢を意識する場面になりました。そしてその次の週、活動の中で“だるまさんがころんだ”をしました。小さい頃からのお馴染みの遊びです。でも多くの子が、「だるまさんがころんだ」で止まるのが苦手で、すぐつかまってしまいます。ところが、今回は違いました。「だるまさんがカエル」「だるまさんがクマ」とスタッフが知らせると、なんと、そのポーズでピタッと止まれる子が続出！ 見えるようで見えない力がついてきたかもしれません。素晴らしいですね。



子どもへの支援は“なるほど”見つけなんです。楽しくいきましょうね！ (R7. 4) K